

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位の	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)
大樹町	①学校運営上の課題	05 その他	ふるさと教育の推進「大樹学」と称し、小中高校と地域が連携を図り、効果的に事業に取り組んでいる。 課題 1 学校・学年間の授業の進め方 2 学校・地域・企業とのつながり 3 教職員の負担軽減	1 学校・学年間の授業の進め方 教育委員会内に、教育専門員(学校教育課配置)を配置し、助言と支援を行う。 2 学校・地域・企業とのつながり 2名のコーディネーターを配置し、事前の調整や事後の協力者への聞き取りを行う。	1 専門性を生かした支援 町が教育専門員の雇用を始めたことで、以下の支援が可能となった。 (1)教育専門員活用による取組 学校内への支援 → 教育課程に基づいた学校間の連携や地域を題材とした授業への改善 (2)地域CO活用による取組 学校外における支援 →外部講師や受入企業・団体の紹介 ・外部人材活用授業後の講師への聞取	企業・地域・学校が連携、協働的な取組をした結果、児童生徒が地域の場所や人を知ったことにより、愛着や誇りを持つことができる。	・学校評価 ・全国学力学習状況調査質問紙における地域との関わりに関する項目	小97 中—	%	小80 中60	保護者 小98 中97 児童生徒 小76 中67	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた  1 実績値について 保護者については、学校評価において、「学校が地域との関わりをふかめるよう努力しているか」という設問の回答 児童生徒については、全国学調質問紙において、地域の大人との関わりの有無について、地域に対して何かしたいかという設問にて、あてはまる・やや当てはまると回答した割合 2 成果 (1)保護者 学校の地域に対する姿勢が、保護者から理解されている。 (2)児童生徒 町内の児童生徒は、全道比で小16%、中17%当てはまると回答されている。 以上のことから、地域学校協働活動は、保護者の理解を得られながら進められており、全道・全国の児童生徒と比べ、一定の成果をあげていると考える。 3 課題と改善 ・協力していただいた企業団体と互恵的な取組となっているかについて、改善の余地あり ・活動量の精査 →時数との兼ね合いを学校と教育専門員が、地域の好意ある申出の調整は申出者とCOにおいて、調整

※行が足りない場合は、非表示になっている行を再表示してください。